

ビデオ用テキスト

—安全で確実な実施のために—

看護師がおこなう静脈注射

採 血

監修・指導

熊本大学医学部保健学科看護学専攻

教授 花田 妙子

助教授 東 清巳

協力

済生会熊本病院

発行 株式会社ビデオ・パック・ニッポン

1. 採血とは

採血は血液をあつかうので、「患者さんの安全への配慮」の他にも「針刺し事故」など、看護師自身の安全にも注意を必要とします。また、手技を苦痛少なく確実にできるか否かは、患者さんとの信頼関係を築く上でとても大切になります。

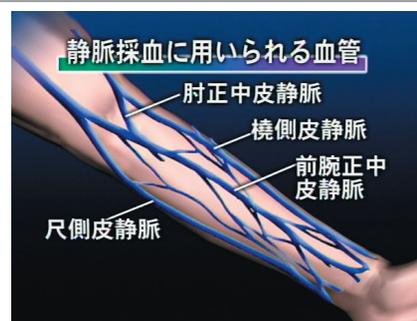
2. 採血の基礎知識

<静脈採血の目的>

- 生化学的検査
- 血清学的検査
- 凝固検査などにより、身体の情報を得るために行います。

<静脈採血に用いられる血管>

- ① 静脈血は、主に肘正中皮静脈、前腕正中皮静脈、尺側皮静脈、橈側皮静脈から採血します。
- ② 手背の皮静脈から採血することもあります。



3. 準備

<必要物品>

- ① 真空採血管
 - ② 採血ホルダー
 - ③ 真空採血用 22 ゲージの注射針
 - ④ 検査伝票
 - ⑤ 駆血帯
 - ⑥ アルコール綿
 - ⑦ 小枕
 - ⑧ 絆創膏
 - ⑨ セイフティボックス
 - ⑩ 手袋
 - ⑪ シーツ
- ※ 採血管は数種類あり、中に入っている試薬の種類や、容積も様々であり、採血の目的に応じて使い分けます。



4. 静脈採血の実際

① 採血管の準備

検査伝票と採血管に貼られたラベルを確認します。

② 必要物品の準備

必要物品を入れたトレーは、処置用ワゴンに乗せ、ベッドサイドに置きます。必要物品は看護師が使いやすい位置に配置します。



③患者の確認

患者さんの氏名を患者さん自身にフルネームで答えてもらい、採血管のラベルと照合します。



④患者への説明

採血の目的、必要性、採血量を説明します。
検査によっては、食事摂取の有無や時間、運動が結果に影響を及ぼすことがあるので、特に外来での採血の場合は、食事制限などが守れたかを確認します。



⑤血管の選択

通常は、表在性で弾力性があり、疼痛が少ないことから肘正中皮静脈を選びます。



⑥採血ホルダーへの針の接続



⑦手袋をつける



⑧ 駆血帯を巻く

穿刺の邪魔にならないように、採血部位のおよそ5 cm 中枢側に駆血帯を巻きます。



⑨ 拇指を中にして手を握ってもらう

静脈を怒張させるため、患者に拇指を中にして手を握ってもらいます。十分なうっ血が得られない場合は、手を数回開いたり閉じたりしてもらいます。穿刺部位周囲を暖めると静脈の走行がわかりやすくなります。

※静脈の走行を指先で触れながら確認すると、弾力のある血管は触知できることがあります。



手を開いたり閉じたりする



手を開いたり閉じたりする



静脈の走行を指先で触れる

⑩ 血管の確認

選択していた血管を採血直前に確認します。



⑪ 消毒

採血部位をアルコール綿で消毒します。

※アルコール綿は万能壺に入れたアルコール綿を使用していました。最近は感染防止の観点から、単包あるいは使い捨ての容器に入ったアルコール綿の使用が勧められています。



⑫末梢側に軽く引っ張る

アルコールが乾いたら、静脈が逃げないように、穿刺部より少し手前を、親指で浮き出た血管を末梢側に軽く引っ張ります。



⑬刺入

刺入角度が皮膚面に15～20度になるようホルダーを固定し、素早く針を刺します。静脈内に針が入ると、針先の抵抗が軽くなります。針先が血管内に到達したら、針が血管内で安定するように、そのまま静脈に沿って針を5mm程進めます。



⑭採血ホルダーを固定し、採血管を押し込む

- ・ホルダーを固定し、採血管を押し込むと、採血管内に血液が逆流してきます。
- ・指先にしびれがないかを聞き、針が神経に当たっていないことをチェックします。



⑮採血管をホルダーから外す

血液の逆流が止まったら、採血管をホルダーから外します。

<連続採血の場合>

連続採血する場合は、ホルダーを固定したまま、採血済みの採血管を抜き、次の採血管を差し替えます。

※針先が動くと、患者に苦痛を与えるので集中して行います。

※抗凝固剤入りの採血管から先に使用するように、採血順序を考えます。凝固促進剤や抗凝固剤入り採血管は、採血後片手で転倒混和させます。



⑯駆血帯を外す



⑰針を抜く

穿刺部位をアルコール綿で押えながら針を抜きます。



⑱注射針を廃棄する

注射針は直ちに所定の容器（セイフティボックス）に廃棄します。



⑲止血する

採血部位を患者さんに2～3分押さえてもらいます。



⑳絆創膏を貼る

止血を確認し、絆創膏を貼ります。



<針刺し事故対策>

- 精神的・時間的に余裕を持ち、手技に集中する。
- リキャップせず、所定の容器に廃棄する。
- 予め患者の感染症に関する情報を把握しておく。
- 手袋を使用する。

<針刺し事故を起こしたら>

- 血液を絞り出し、水道水で洗う。
- 局所を消毒する。
- 管理者に報告し、適切な処置と対策を講じる。
- 対処法のマニュアルをチェックしておく。

